

ノーサイド

学校長 梅田 比奈子

今、ラグビーワールドカップが開催されています。9月28日には、世界2位のアイルランドに逆転で勝ち、テレビでも選手、会場の喜びが伝わってきました。

先日の朝会でラグビーの話をしました。今回、ラグビーワールドカップが開催されるにあたって、ラグビーの事をあまり知らなかった私は、いくつかの記事やコメント、そして、選手の様子などを読み、そこで感じたことを伝えたいと思ったからです。

ラグビーから生まれた言葉は、様々あります。そして、ラグビーの選手は、様々な人をリスペクトしているということでした。彼らは、一緒にチームのなかまはもちろん、対戦相手、審判、観客、数多くのスタッフに、最大限の敬意を払っているというのです。対戦相手がいなければ、ゲームは行えない、また、対戦相手も練習を積んで、自分たちに向かってくるからこそ、自分たちも最高のプレーができる。そして、審判がいるからこそ、きちんとルールによって判断され、全力を發揮できる。さらに、応援の人々、試合が確実に、安全に行えるように支えているスタッフがいるから、試合も盛り上がり、スムーズに開催できる。つまり、ラグビーの選手たちは、そんな様々な人の支えがあって、試合ができ、自分が精いっぱい頑張れるという思いをもっているということです。そして、それは、今、子どもたちが頑張っているスポーツフェスティバルにも通じる事なのではないかと思いました。



今年から、二色になったスポーツフェスティバルですが、相手の色がなければ、そもそもスポーツフェスティバルが成立しません。そして、それぞれの種目で一人ひとりの一生懸命な練習があるからこそ、当日本気で挑めるのです。もちろん、演技は、争う・・ということではなく、全ての子どもが心をひとつにして取り組みます。苦手な人、うまくできない人もいるかもしれませんが、でも、頑張っている姿は、何より、周りの子どもたちが知っています。当日、そして、それまでも子どもたちを応援してくださっている保護者の皆様がいるから、子どもたちは精一杯頑張れます。さらに、瀬小のスポーツフェスティバルは、地域の方々の支えなしには成立しません。こうやって考えると、本校のスポーツフェスティバルは、すべての人々の力が集まって行われているのだということを実感します。

ラグビーは、試合が終わるとノーサイドです。試合が終われば、勝った側、負けた側もなく、お互いを尊重し合うということです。アイルランド戦でも、試合が終わった後の花道で、アイルランドの選手が日本の選手を拍手で送りました。精一杯がんばったからこそそのノーサイド。私は、ノーサイドというと、一つの出来事を思い出します。ある学校での騎馬戦でのことです。様々な対戦があり、最後の大将戦。そこでの勝ち負けが全体の勝ち負けにも関わってきます。その大将戦で負けてしまった大将。結果は、大将戦で負けてしまった色の敗戦でした。騎馬戦終了後、負けた大将が勝った大将に駆け寄り、握手を求めました。二人が固く握手している姿を見て、とても感動しました。そして、この姿が、ノーサイドなのだ改めて思います。

10月5日のスポーツフェスティバル。一人一人が輝き、たくさんの思いのつまった一日にしていきたいと思います。